

令和5年9月29日発行

第63号

茨城県県央農林事務所
笠間地域農業改良普及センター

TEL (0296) 72-0701

FAX (0296) 72-2718

HPはこちらから→



普及だより

令和5年度 新規就農者のための農業講座 開講式



**新規就農者のための農業講座
第一回病害虫講座を開催しました**

普及センターでは、就農後五年以内の新規就農者を対象に、農業講座を開催しています。七月一八日に開講式と第一回病害虫講座を開催し、新規就農者六名が参加しました。

開講式では受講生の自己紹介と今年一年の営農計画作成を行いました。営農計画作成では、現時点での作付品目と時期、販売先、売上目標について計画を立てていただきました。この計画をもとに今年一年間の振り返りとして、閉講式の時に評価・反省を行う予定です。

病害虫講座では、農薬の適切な使用方法や特性、病害虫診断の基礎について講義を行いました。その後、現在行っている病害虫防除についての意見交換会を行いました。意見交換会では、病害虫防除で心掛けていることや工夫に加えて、就農してみている苦労や将来の目標など様々な意見が飛び交い、とても有意義な交流となりました。

普及センターでは今後も、新規就農者支援に取り組んでいきます。

小ギク定植機の導入が進んでいます

小ギク生産では、省力化されていない作業が多く、一部の作業が規模拡大のボトルネックとなっています。

そのような中で、定植作業を省力化できる小ギク専用の半自動移植機(定植機)が、商品化されました。普及センターでは実演会の開催により導入を提案し、現在四経営体で活用されています。

省力化効果の詳細については調査中ですが、生産者からは「作業が楽になった」、「定植機に合った作業方法を試験したい」等の声が寄せられています。

笠間市で、定植機など小ギク栽培へのスマート農業導入について補助事業化されたことも、導入の後押しとなっています。

普及センターでは引き続き小ギク産地の活性化に向けた支援を続けていきます。



小ギク定植の様子

J.A常陸笠間地区直売所生産部会において野菜栽培講習会を開催

普及センターではJ.Aと連携し、直売所生産部会を対象とした野菜栽培講習会を開催しています。講習会は令和三年九月の道の駅かさまオープン以来、地場産品の品質、地場産率の向上、新たな品目導入を目的としています。品目はダイコン、ネギ、レタス、ブロッコリーといった店頭でよく見られる野菜から、ロマネスコ、ビーツ、カーボロネロ、トレビスといった西洋野菜まで幅広く取扱ってきました。今後普及センターではJ.Aと連携して直売所の地場産品の拡大と品質向上を目指して支援していきます。



講習会の様子

「いばらきみどり認定」を受けてみませんか?

「いばらきみどり認定」は、令和四年に制定・施行された「みどりの食料システム法」に基づいて、環境負荷低減に向けた生産者や地域の取り組みを支援・促進するための認定制度です。

現在、エコファーマーに認定されている方は、認定期間の満了をもってエコファーマー認定継続申請が出来なくなります。

環境に配慮した農業に取り組んでいる方や、エコファーマーの認定期間満了が近い方で同様の取り組みを継続される方は、「いばらきみどり認定」を受けてみませんか?

個人申請や、生産組織等の団体申請(品目や取り組み内容が同一等の条件有)も可能です。認定を受けることで、設備投資の際の税制優遇等のメリットを受けられる場合があります。御相談は普及センターまで。



詳しくはこちら

笠間地域女性ネットワーク活動による七味唐辛子商品化

笠間地域女性ネットワークは笠間地域で直売活動や農産加工活動に従事する女性を中心に、農産物直売の発展や、地域活性化を目的に活動しています。

今年度は、笠間地域の農産物を使用した七味唐辛子の商品化に積極的に取り組んでいます。

商品開発に向け、原料となる地場産品についての検討、衛生管理や販売先について会員同士で情報交換を行っています。

今後普及センターでは笠間地域女性ネットワークの活動を支援していきます。



トウガラシ種子配布の様子

薬剤防除が難しい クリシギゾウムシ対策について

クリシギゾウムシは、収穫前のクリのイガに穴を開けて果実内に産卵し、孵化した幼虫が果肉を激しく食害します（写真）。クリシギゾウムシの幼虫は土中で越冬し、二〜三年間休眠する場合もあります。病害果や割れ果等の不良果を園内に残すと、その後数年にわたる成虫の出現が助長されます。クリシギゾウムシは移動性が低く、園外から侵入してくる可能性が低いいため、不良果や拾い残し等の収穫残渣の園外持ち出しを徹底することで、園内の発生密度が徐々に低下していくことが実証されています。収穫残渣は園内に放置せず、適切に処分し、耕種的防除に努めましょう。



クリシギゾウムシによる食害

水稲 秋耕で 環境に配慮した農業に

水稲の収穫後、秋に稲わらをすき込む「秋耕」には様々な効果があります。

①「わき」の抑制

わき（湛水時のガス発生）は長期間の湛水や有機物の分解で発生し、水稲の根を傷め、生育障害を引き起こします。秋耕により稲わらの分解が促進され、わきの発生が抑制されます。

②イネ縞葉枯病蔓延防止

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。笠間市・城里町の再生稲では、年々発病株率が増加しています。刈株再生稲はヒメトビウンカの越冬場所となり、病原ウイルスの伝染源となるため、秋耕や畦畔除草を行うことで越冬量を減らすことができます。

③温室効果ガス排出削減

水田からのメタン排出は、日本のメタン排出の約四〇%を占めています。中干し期間の延長や秋耕は、水田からのメタンガス生成が抑制され、温室効果ガス排出量の削減に繋がります。

いばらき米の極み 頂上コンテスト出品者募集

県では、県産米の「おいしさ」を極めた米を選出するコンテストを開催しています。出品の要件は、茨城県内で生産された令和五年産水稲うるち玄米で、一経営体につき二点（二品種一点）までとなっています。また今年から作付面積が二反以上で、平均収量が三〇〇キロ/反あることが要件に加わりました。

ローズドール賞（最優秀賞）を受賞したお米は、県が首都圏へ売り込み、販売や情報発信を通して広くPRさせていただきます。出品は無料で、出品申込みは令和五年一〇月一三日です。こだわりのお米をぜひ出品してみたいかがでしょうか。たくさんのお応募お待ちしております。



申込方法などは
県産地振興課HPへ

有機農業始めてみませんか

今、環境にやさしい有機農業が全国的に注目されています。

農林水産省の「みどりの食料システム戦略」においても、二〇五〇年までに耕地面積に占める有機農業の取組面積を二五%に拡大する目標が掲げられています。

有機農業とは、化学的に合成された肥料、農薬、遺伝子組換え技術を利用せず、環境への負荷をできる限り低減した方法を用いて行われる農業です。

生産される有機農産物は、有機JAS規格の基準に適合しているかを、第三者機関が検査・認証することにより、「有機JASマーク」を使用し、「有機」や「オーガニック」等と表示することができます。

有機農業は手間がかかりますが、差別化が図れるため有利販売のチャンスがあります。

「有機農業に興味はあるけど、どうしたらいいかわからない。」という方、是非一度、普及センターに御相談ください。

新任・退任農業三士のご紹介

七月一二日に令和五年度茨城県農業三士の認定・退任式が開催されました。当管内からは、農業経営士として鶴田輝夫氏（笠間市）、永田修一氏（笠間市）が知事から認定されました。また、令和四年度をもって、青年農業士の深谷聡氏（笠間市）が退任されました。長い間の御活躍、ありがとうございました。



近藤笠間市副市長(中央)へ認定・退任の報告

「農業いばらき」Webサイトが開設されました

令和五年四月、茨城農業を応援する「農業いばらき」は、会費制情報誌からスマホ向け無料Webサイトに生まれ変わりました。それにより、最新の農業情報を「いつでも」「どこでも」「誰でも」閲覧いただけるようになりました。QRコードからWEBサイトにアクセスできます。



農業いばらきWeb版

栗栽培開始講座のお知らせ

普及センターでは、栗ほ場の管理を引き継いだ後継者や、これから栗栽培を新規で始める方のために講座を開催しています。十月から月一回、全四回で、栗の収穫や選別、販売方法、植え付けや病害虫防除、せん定などの栗栽培の基礎知識や技術について学びます。関心のある方は、普及センターまでお問合せください。

日程	講座内容	場所 (予定)
10月 (10/12)	栗の収穫・選別 (実習)	笠間市農業公社栗ほ場
11月	栗の販売方法	笠間市地域交流センター もとど
12月	栗の栽培方法 (植え付け、防除)	笠間市地域交流センター もとど
1月	栗のせん定 (実習)	笠間市農業公社栗ほ場

小ギク新規生産者、募集

J A常陸笠間地区花き部会では、“小ギク”を生産する方を募集しています。部会では、需要期（七月新盆・八月旧盆・九月彼岸）を中心に作付けし、六月から一月まで出荷しています。実需者から高い評価を得ており、需要期の注文に対応しきれない状況が続いています。

過去の募集時には、定年を迎えるタイミング、お花が好きで自分で育ててみたい、小面積で収入を上げたい、他作物から転換意向など、様々なきっかけで栽培を開始された方々がおり、現在では主力生産者として産地を支えています。栽培に興味のある方は、普及センターまたはJ A常陸友部花きセンター（電話〇二九六（七七）八一六四）まで、連絡をお待ちしております。

募集要件

- ①JA常陸管内の方。
- ②市場出荷を前提とし、部会に加入していただける方。



令和六年度 茨城県立農業高等学校 入学生募集のお知らせ

県立農業高等学校では、高校等の卒業生（若しくは見込者）を対象に農業部（農学科四〇名・畜産学科一〇名）、園芸部（園芸学科三〇名）、農大卒業生と同等の学力を有する者を対象とした研究科一〇名（作物・園芸・畜産の専攻コース）の学生を募集します。

入学願書の受付期間

- 一般入学・前期（各学科）
令和五年一月二三日〜
二月八日
- 一般入学・後期（各学科）
令和六年一月二九日〜
二月二〇日
- 研究科
令和五年十一月二三日〜
二月八日

問い合わせ先

茨城県立農業高等学校
電話（〇二九）二九二一〇〇一〇
FAX（〇二九）二九二一〇九〇三
▼農大ホームページ
茨城県立農業高等学校 **検索**